

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・11月号・付録
2018年11月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・藤田真文

11月8日開催セミナー 参加受付中!

―9月理事会報告―

2018年9月21日、9月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 水島委員長

・9月20日に委員会を開催し、2019年1、2月号について検討した。

・12月号特集は「平成最後の紅白歌合戦」。歴史的検証を軸に構成する。表紙は田中圭さん。

・2019年1月号特集は「第56回ギャラクシー賞上期」。また、放送改革シリーズ第2弾として、インターネット業界など他業種目線から件の問題を取りあげる。表紙は竹内涼真さんに内定。

・2月号特集は「投稿映像の問題」など、デジタル時代のテレビの報道現場に起こっている新しい動きを取りあげる。

◇選奨事業委員会

〈テレビ部門〉 出田委員長

・8月28日に月評会を開催した。

月間賞には「病院ラジオ」(NHK)、NHKスペシャル「駅の子」の闘い、語り始めた戦争孤児」(NHK)、超逆境クイズバトル!!

「99人の壁 夏の大花火」(フジテレビ)、ミステリースペシャル「満願」(NHK)の4本を選んだ。

・第56回ギャラクシー賞上期応募を受付中。4〜8月放送分の作品は、111本の応募があった。

〈ラジオ部門〉 五井委員長

・8月7日に定例会を開催し、「ラジオと川柳」をテーマに、「しあわせの五・七・五」(毎日放送)、「つれづれ川柳」(波のりラジオ W E K E N D F E V E R パリパリタイプ)内・西日本放送)、「艶

だし川柳」(栗田善成の土曜娯楽版)内・九州朝日放送)、「チャレンジ川柳!むさし流!」(エフエム青森)、「時事川柳」(荒川強啓デイ・キャッチ!)内・TBSラジオ)を聴取し議論を交わした。

・これまでギャラクシー賞審査において各ジャンル(生ワイド、音楽&エンタテインメント、報道・ドキュメンタリー、ドラマ)を「審査部門」として応募を受け付けていたが、「ラジオ部門」と重複してわかりづらいという指摘から、「審査カテゴリー」に名称を変更した。

〈CM部門〉 服部委員長

・8月22日に定例会を開催し、38本のCMを視聴した。Apple iPhone X「記憶クイズ」、伊藤忠商事「法務部 多田さん篇」、KINCHO「殺虫剤占いシリーズ」、栗原市PR動画「おいでよ栗原」などのCMが好評だった。

・9月18日に定例会を開催し、27本のCMを視聴した。日清「チキンラーメン」夏の日のごで垣結衣篇、Googleアシスタント「それ、Googleにやらせよう。篇」、

ソフトバンク 白戸家ミステリート
レイン「消えた父+リヨウマの事情
聴取篇」、きよら グルメ仕立て「グ
ルメな人篇」などのCMが好評だっ
た。

・11月10日上智大学四谷キャンパス
にて「ギャラクシー賞CM入賞作品
を見る・聴く会(第3回)」を開催予
定。

〈報道活動部門〉丹羽委員長

・報告は特になし。

◇企画事業委員会 桜井委員長

・9月7日に委員会を開催し、放鬆
セミナー2018のテーマを決定し
た。テーマは「頻発する自然災害
ローカル局はどう向き合うか」。西
日本豪雨・台風21号・北海道胆振東
部地震を受け、災害報道について、
主にローカル目線から多角的に議論
を深める。11月8日明治記念館にて
開催予定。GALAC11月号に広告
を掲載する。

◇広報委員会 滝野委員長

・ギャラクシー賞データベースの認
知度を広めるため、GALAC10月
号に広告を掲載した。

・9月11日に委員会を開催し、Gメ
ンバーサイト運用、HPリニューアル

ル案について検討した。

・8月10日からGメンバー限定でギ
ャラクシー賞動画を順次公開したが、
新規会員獲得には繋がらなかった。

現会員数は119名で、半額キャン
ペーンなどを企画するもなかなか会
員数増の成果は得られていない。年
会費の見直しや、活動頻度によって
次年度の会費を無償化するなど、会
費面の改革を検討していく。

・HPリニューアルの骨子が固まっ
た。制作費の見積もりは、2018
年度予算を上回る額だったが、現H
Pのセキュリティ面の脆弱性改善や
スマホ閲覧を可能にするなど、いず
れも早急な対応が必要のため、今年
度完成予定での作業実施を理事会で
承認した。

2. その他

①東京TVフォーラム「Tokyo
Docs」後援名義使用の件
後援名義使用を承認した。

②「文章保存・管理」「印章管理」の
件

「文章保存・管理ガイドライン(案)」「
印章規程(案)」を理事会に提出し
た。

③学文社「放送批評の50年」預かり

の件

250部ほどの残部が学文社倉庫に
あり、取り扱いを検討した。理事会
では、発売以降に入会した正会員、
維持会員社への配布を決定。ほか、
公共・大学図書館に寄付などの提案
があった。

次回の理事会

10月25日(木)、11月29日(木)

【出席】音好宏、橋本隆、藤田真文、
藤久ミネ、丹羽美之、水島宏明、稗
田政憲、出田幸彦、五井千鶴子、服
部千恵子、桜井聖子、滝野俊一、市
村元、茅原良平、小林毅、坂本衛、
鈴木嘉一、山田健太、中島好登



◆放懇 SNS 発信中◆



フェイスブック
アカウント名「放送批評懇談会」



インスタグラム
アカウント名「houkon.jp」



ツイッター
アカウント名
「マイベストTV君 (@mybesttv)」

フォロー、「いいね」👍をお願いします！

会議記録

26日	25日	21日	20日	18日	11日	7日	[9月]	28日	22日	21日	7日	3日	[8月]
		(選奨) ラジオ定例会 (選奨) テレビ月評会		(選奨) CM定例会 出版編集委員会 理事会		企画事業委員会 広報委員会	(選奨) テレビ月評会	(選奨) CM定例会 出版編集委員会	(選奨) ラジオ定例会 出版編集委員会	企画事業委員会

現役のテレビっ子です

梅田恵子

昭和の典型的なカギっ子で、テレビっ子。スポーツ紙の放送担当として、今も現役のテレビっ子である。自己紹介の定番ネタで書くと、最初に夢中で見たのはNHK人形劇「新八犬伝」(1973年)。子ども向け番組に辻村ジュサブローの人形をチョイスするセンスは、今考えても圧倒的。美意識と大冒険に満ちた自由な作品性は、ドラマコンテンツの理想として今も私の中にある。特に市川森一作品のファン。おそらく大河ドラマ「黄金の日」(78年)の影響だ。当時の大河は子どもも夢中で見たコンテンツ。善住坊のノコギリ引き、石川五右衛門の釜ゆで、秀吉(緒形拳)の怖すぎる死に方など、あらゆる落とし前を見せてくれた。テレビドラマのマイベストは氏の「淋しいのはお前だけじゃない」(TBS、82年)。いつ見ても笑えて、腰が抜けるほど泣ける。あらゆるジャンルの名番組を見てきたことは大きな財産。それは今も日々更新されている。

新入正会員自己紹介

テレビの夢

境真理子

40年ほどの職業生活のうち半分は放送局、残り半分は研究者として大学で過ごしてきました。制作者だった時代を思い出すことはほとんどありませんが、今でもうなされる夢は、「放送間際なのにテープ素材がない」焦っているうちに目を覚ますというものです。意識下で今も迫り続けるテレビと意識的、自覚的に向き合いたいと考えるようになりました。札幌に生まれ川や野原で遊ぶ子ども時代、受像機から届いたのは世界の大きさと多様な人々でした。ドキュメンタリー番組に夢中になり、気がつけば札幌の民間放送局に勤め、ニュースや番組制作に携わり映像表現を考え続ける日々でした。またジャーナリズムを学びたいと、休職してアメリカの大学院でも学びました。しかし、つくる人からみる人になって、放送はどこに行くのだろうと考える日々です。夢の中の自分は、テープが見つからず途方に迷っていますが、覚めている自分は番組を凝視しなければと改めて思います。

私の放送研究

佐藤友紀

民放連の事務局で働くこと28年。今は総務部で放送局の情報セキュリティ対策を中心に民放連賞の運営から放送作業まで雑多な仕事を担当しています。それまでは研究所で20年弱、視聴者調査などを行ってきました。今も細々とマスコミ学会や大学の先生方との研究会などに参加しています。怠惰な性格からか自ら進んで活動することはなく、放送批評懇談会にもひよんなことから参加をさせていただくことになりました。

さて、日曜日の今日は、参加する研究会のテーマであるテレビの信頼性について、あれやこれやと考えています。インターネットで手軽に動画が見られる状況のなか、放送はネットと何が異なるのかということが問題の背景です。視聴者はテレビで見てもTVerで見ても同じだと言います。とすると情報そのものの違いではなく、その情報がテレビでオンエアされたものかどうかのポイントなのでは？

バカの考え休むに似たりか。

新入正会員自己紹介

ライターバブルから抜け出すために

新川周平

オールドメディアの業界団体職員として、現代のメディア環境について常に意識しながら仕事をしている。トランプ大統領の誕生やブレイグジットなどの現象とともに、ソーシャルメディアによる情報摂取の特徴として「ライターバブル」「エコーチェンバー」といった言葉がバズワードとして語られている。

こういった情報環境の中で、既存メディアはどのような価値を社会に提供できるのか、そして、どうすれば将来にわたりその役割を果たし続けることができるのかについて考え続けている。しかし、それと同時に、自らもライターバブルの中にいないか、問いつける必要性もある。業界の論理にとらわれた、ユーザー不在の考え方をしていないか。そして、そこから脱するためには、常に自らを客観的に見つめなおす必要がある。放送批評懇談会での活動を本業から少し離れた放送という業界について学び、自分の立ち位置を振り返って考えるきっかけにしたい。

新入正会員自己紹介

テレビが「趣味」と言いたかった

戸部田誠

子どもの頃からテレビばかり見ていました。けれど、「趣味は何？」と尋ねられても「テレビ」と答えるのは憚られました。なぜなら、テレビは、「読書」や「スポーツ」など能動的に行うものではなく、一般的には受動的なものだと思われているからです。でも、僕は明らかに能動的にテレビを見ていて、間違いなくテレビは趣味のひとつでした。だから、「てれびのスキマ」というテレビについてのブログを始めたのです。

それがきっかけとなり、商業誌などにも書くようになり、専門のライターとなりました。堂々と趣味だと言いたいと思っていたら、今どきテレビについて真正面から書くことを生業とする書き手が少ないというスキマに運良く滑り込み、「テレビを見ること」が仕事になりました。若輩者で経験も乏しい僕ができるのは、テレビに対する愛情をこれまでに以上に注ぎ、発信していくことだけだと思い、僥倖ながら入会いたしました。よろしくお願いたします。

放送を大切に

長井展光

35年前、アナウンサーで放送人人生を開始、4年程で報道に。原稿は手書き、現場近くの公衆電話は生命线、調べものは図書室、映像はまだフィルムが残り、ビデオテープを電車の車掌さんに託して、という時代。もちろん、「ブラウン管」を支配していたのは地上波。「地上波」という言い方もなかったBS前後です。90年代にはマニラ支局暮らし。この頃から小型の携帯電話が登場、パソコンも普及、映像伝送も小型化、メールが使えると大きな変化。帰国後、いわゆる「メディア系」に転じ、地デジ化、ワンセグの立ち上げなど「デジタルの真ん中」にいました。世のメディア環境、ライフスタイルが激変するなか、放送に求められるもの、放送が守らなくてはならないことは何で、逆に変えてもよいところは？とよく考えます。真実を伝え、文化を紡いできた放送。「時代の変化のなかでも放送が元気に、役割を果たし続けられるように」、そんな思いを胸に頑張ります。

新入正会員自己紹介

一視聴者として

細井尚子

お祭と芝居が好きなお一視聴者です。専門は演劇学で、近年は東アジアの大衆演劇とその娯楽市場を対象にしています。ニッセイ名作劇場の「はだかの王様」と中学二年の時の歌舞伎教室、続けて見に行った歌舞伎座興行で芝居の面白さにはまりました。初代尾上辰之丈が大好きで、留学中に訃報を聞いた時の喪失感といったら：ともかく普段着のまま気楽に楽しめるものに心惹かれますのでテレビも大好きで、今も「ブラスカ」や「クレクレタコラ」など、昔馴染への愛は消えません。生産・供給・需要に分ければ、完全に「需要」領域の住人です。生産・供給サイドの大変なご苦労を知る機会があっても、作品のみ見て何のかわりかと言っていました。キャッチできていない要素もたくさんあったはず。選奨事業のテレビ委員会の末席に加えて頂く機会に恵まれましたの感謝し、今より少しでもまともな視聴者になれるよう努めます。よろしくお願いします。

新入正会員自己紹介

やっぱり、CMって面白いね!!

山口菜穂美

大学1年の時、目白でエメロンの「ふり向かないで」の撮影をした。「声がかかるかも……」淡い期待は裏切られた。それから4年、就職したのはエメロンのライオン油脂。宣伝部に配属され、仕事は新作CFの映写とCF送稿。それまでは、CMに興味なんて無かった。ところが次々と出来上がってくるCMを見るたびに面白いと思うようになり、興味も湧いてきた。CMによって商品が売れたり売れなかったりする。自分の仕掛けた事で人が動くなんて面白い。私もCMが作りたい！まずコピーライター養成講座に通い、CM制作をやりたいという熱い気持ちを綴った手紙を担当役員に届けた。1980年ライオン油脂とライオン歯磨の合併でライオン株式会社になった時、広告制作部の配属となり、「広告に出ませんか？」と声をかける側となった。それから約40年。500本以上のCMを手がけ、ACCやACCで活動しCM制作の醍醐味を知った。でもCMはまだまだ奥深く、いまだその興味は尽きない。

放送批評懇談会セミナー2018

西日本豪雨・台風21号・ 北海道胆振東部地震

頻発する自然災害

受講者募集中

ローカル局はどう向き合うか

開催趣旨

豪雨、台風、地震……日本列島は立て続く自然災害に襲われました。放送にとって災害報道は大きな使命であり、存在意義をも問われます。地元に必要な情報は十分伝えられたのか？ テレビ的に「画になる」取材に偏らなかったか？ ネット上に「フェイク」も含めた情報が溢れる中、放送はネットをうまく活用また役割分担はできたか？ 地元でテレビが見られない停電の中で放送はどう機能したのか？ CM面での対応は？——など論点は山積しています。当セミナーでは、いち早く独自の天気予報を始めるなどローカル情報を充実させ災害報道に活かしてきた南日本放送の中村耕治会長による基調講演と、報道現場、ネットでの識見のあるパネリストによる討論で、災害報道について、主にローカル目線から多面的に議論を深めます。

プログラム

14:00~14:45

【基調講演】

災害報道と地域主義

中村耕治

南日本放送会長

15:00~16:30

【パネルディスカッション】

災害とメディア～テレビ、ラジオ、ネット

羽二生 涉

北海道放送東京支社
報道制作部長

藤代裕之

法政大学准教授

脇浜紀子

京都産業大学教授

日時：2018年11月8日(木) 14:00~16:30

会場：明治記念館 東京都港区元赤坂2-2-23 Tel.03-3403-1171

■受講料 放送批評懇談会正会員(個人) 3,000円
維持会員(法人) 5,000円
一般 8,000円

■申込先 放送批評懇談会ホームページ <http://www.houkon.jp>
ファクス、郵送でのお申込をご希望の方は、資料をご請求ください
Tel.03-5379-5521 Fax.03-5379-5510 kondankai@houkon.jp

■申込締切 11月1日(木) 定員100名、先着順受付。定員になり次第、締め切らせていただきます。

